

## 自分のなかにある新しい自分を見つける

始業式・入学式から2週間が経過しました。1年生は少しずつ中学校生活に慣れてきたようです。4月26日は1年生の部活動への入部届の提出締め切りになります。また、毎日の学校生活の中では、全校生徒が元気に頑張っている様子が多くの場面で見られます。毎朝、朝読書から一日がはじまり、集中して授業に取り組んでいます。放課後は、3年生のリーダーシップのもと、間近に迫った支部選手権大会や交流試合等のためにもありますが、部活動に熱心に取り組んでいる姿が見られます。

さて、中学校時代は年齢的にも激動の時だと言われています。文豪のゲーテは、それを『疾風怒濤』（しっぷうどうとう）という言葉で表現しています。中学生は無限の可能性を持っているとも言われています。しかし、その言葉はよい可能性だけを意味しているものではありません。その逆の可能性も含んでいるとも言われています。今の中学校時代をどう生きるかは今後の人生にも大きな影響を与えます。だからこそ、敷島中学校の全校生徒にとって、今このときは、一生を左右しかねない大切な岐路と言えます。中学校生活では、社会で生きていくための土台を本気になって築かなければならない大切な時期なのです。そんな大切なときだからこそ、みなさんには「一年後の自分像」を見据えて生活を考えてほしいと願っています。

### 中学校で君たちがやることは

「自分のなか」にある「自分の知らない自分」を見つけていくことなんだ

#### さわやかなあいさつができる自分

「ハイッ!」としっかり返事ができる自分

その返事に心をこめることができる自分

授業に集中し、頑張ることができる自分

清掃にしっかりと取り組める自分

自己を見つめ、毎日の生活記録ノートにしっかりと書いて提出できる自分

夢や目標に向かって前進する自分

### 君のなかにもきっとあるにちがいない

そんな自分を見つけていくんだ



たった一度しかない中学校生活、縁あって出会いがあり、この一年を共に過ごすことになった先生方や仲間と新しい環境・教室で、自分を大きく変えてみませんか。自分を変える・・・、つまり成長すること。そして自分のなかにある新しい自分を見つけるということ。今日も授業や清掃などに取り組むみなさんの姿は立派でした。大きく成長するみなさんは、全員が可能性の塊です。

### < 新入生 誓いの言葉 >

小学校の6年間と違い、3年間というのはとても短い時間だと思います。だからこそ、一日一日を大切にしたいです。日々の授業を通してたくさんのことを学び、学校行事を通して一つのことをやり遂げる難しさと楽しさ、仲間と協力する大切さを学びたいです。そして、部活動では自分の好きなことに思い切り打ち込み、目標に向かって努力していきたいです。そして先輩方ともたくさん交流したいです。色々な経験をし、充実した楽しい学校生活を送りたいと思っています。私たちは、敷島中学校の校訓の「敬愛」のもと、人を尊敬する気持ちを忘れず仲間を大切に、一つ一つのことに全力で頑張りたいです。(新入生代表 1年3組 稲垣 光弥さん)

## 部活動、新たなドラマのスタート

中学校生活の大きな柱ともなる「部活動」ですが、上越教育大学が全国4000人の中学生に実施した研究データによると、部活動によって『子どもたちの社会的な絆の意識』が育つという結論が発表されています。また、部活動は学校に対する前向きな構えを育成し、それが間接的に、勉強に対する構えにも好影響を与えるという結果も出ています。実際に、部活動をしている生徒たちは学校の存在を肯定し、授業や行事、学校のルールや社会規範を守るといった部活動以外の生活にも適応していきます。またテスト前の勉強にかかる時間も部活動をしている生徒の方が長い傾向があるというデータも出ています。

わかりやすく言うなら、「部活動と勉強は両立する」→「部活動は勉強の邪魔にはならない」ということです。

部活動を通して仲間と喜びや辛さ、厳しさや悲しみ、時には仲間との衝突、そして達成感や感動などを、具体的に共有する体験が生徒たちの「社会的な絆の意識」を向上させ、魅力的な大人への成長へと結びつくきっかけとなると思います。いよいよ3つの学年がそろい、部活動の新たなドラマがスタートします。昨年度末に通知させていただいたように、今年度から下校時刻を30分ほどあげ、17:30としています。(9月中旬まで)生徒のみなさんには、時間を大切に、集中して取り組むことを期待しています。どうか、保護者の皆さまの温かいご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。



## めざせ、ファーストペンギン!

4月19日(水)に前期の学級役員任命式を行いました。2、3年生が先に体育館で整列し、よい雰囲気をつくり、1年生もそれに続こうと頑張っていました。式中の態度、学級役員への返事、どれも本当に素晴らしいと感じました。任命式の中で、私から話をさせていただきました。トドやシャチなど波の下に何が潜んでいるか、危険を承知で最初に飛び込むペンギンを「ファーストペンギン」と呼びます。学級役員へのチャレンジも簡単なことではないと思います。

- ① よいと思うことを自分からする
- ② よくないと思うことは自分からやめる
- ③ 自分でよい方向に変える

たったこれだけの単純なことだが、実は実行することは難しい。「人の目が気になる?」「かっこつけたと思われる?」だけど、これらを意識しないと、せっかくチャレンジした意味がないと思います。

**「誰かの苦しみの上に、自分の楽しみをつくってはいけない」**

しかし、残念ながらそういうことがおきることがあります。自分の楽しみのみを優先すると、学級は、学年は、学校はよくなりません。そこに挑むのが生徒会本部役員や学級、学年のリーダーだと思います。選ばれた方も選んだ方も、どちらも同じくらい責任が重い。みんなで理想の学校(楽しい学校・通いたいと思う学校)をつくりだす、本当に尊い仕事だと思います。君たちの前にシャチはいない。あるのは仲間関係への恐れ、それを乗り越える信頼を築いていきましょう。

